

宇都宮の民話

万年橋(まんねんばし)とカッパの恩返し

江戸時代の中頃のことで、万年橋のすぐ上流は農馬の洗い場になっていましたが、浅瀬で急流でしたので毎年一人や二人の子どもが川に流されていました。だれ言うとなく、万年橋の下にはカッパの親子が住んでいると噂がたちました。

ある日の夕暮れどき、一人の農夫が洗い場で馬を洗っていると、農夫の知らない間に一匹のカッパが馬の尻尾にしっかりとつかまりました。そうとは知らない農夫は馬を引いて家に帰り、馬小屋に馬を入れましたので、カッパは小屋の中を走り回り、とうとう逃げ場を失って馬桶(まおけ)の中に体をひそめました。

その騒ぎで駆けつけた農夫の家族にカッパは捕まえられましたが、よく見ると子どものカッパでした。かわいそうに思った農夫は、カッパを万年橋の下に放してやりました。

それからは不思議なことに、この辺りでは子どもが川に流されることはなくなったそうです。

(終わり)

